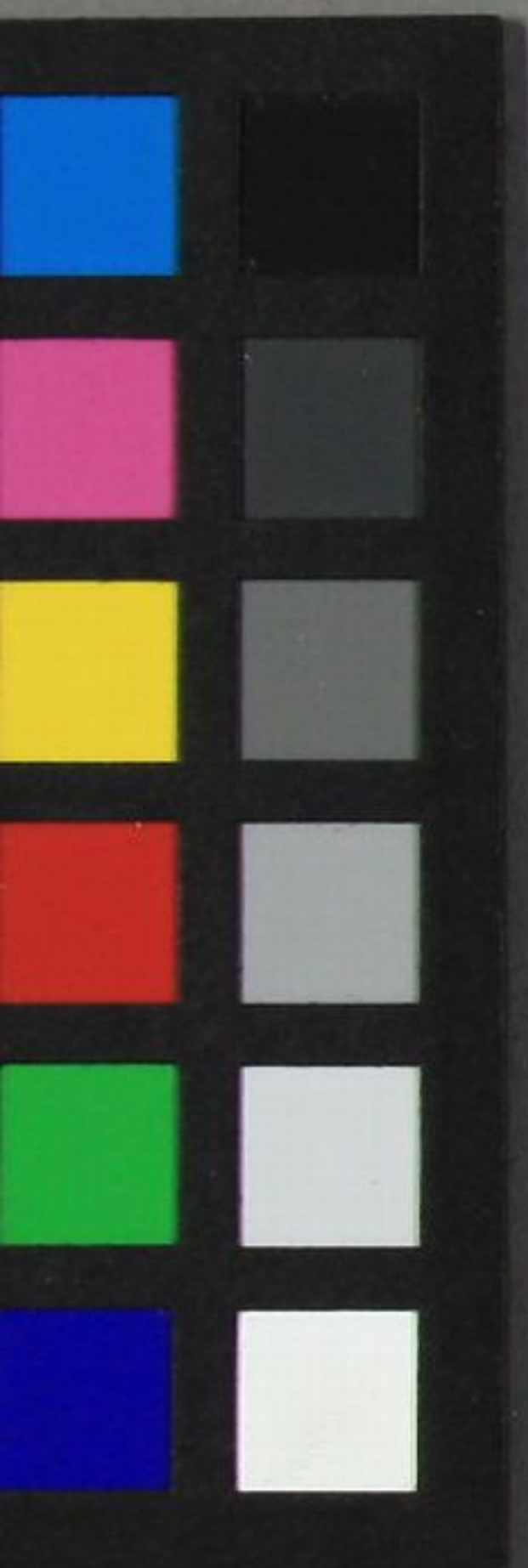


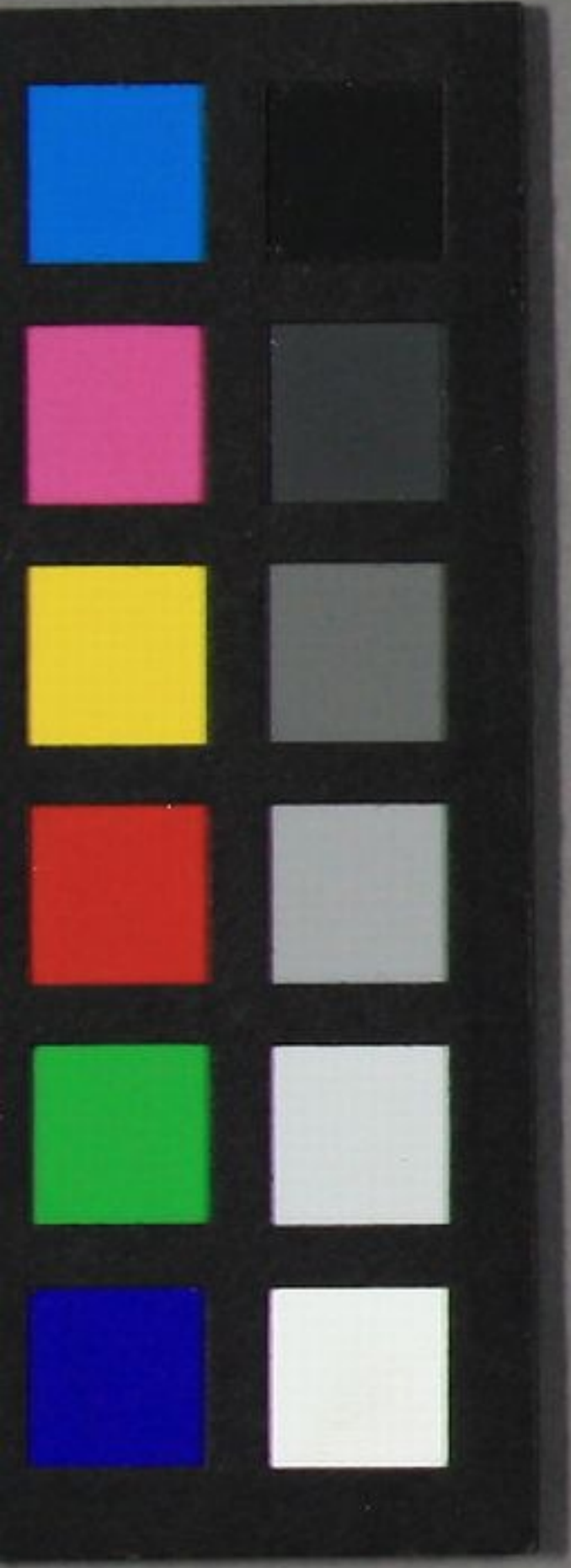


あ
ら
り
り



あ
あ





あま

あま

あま

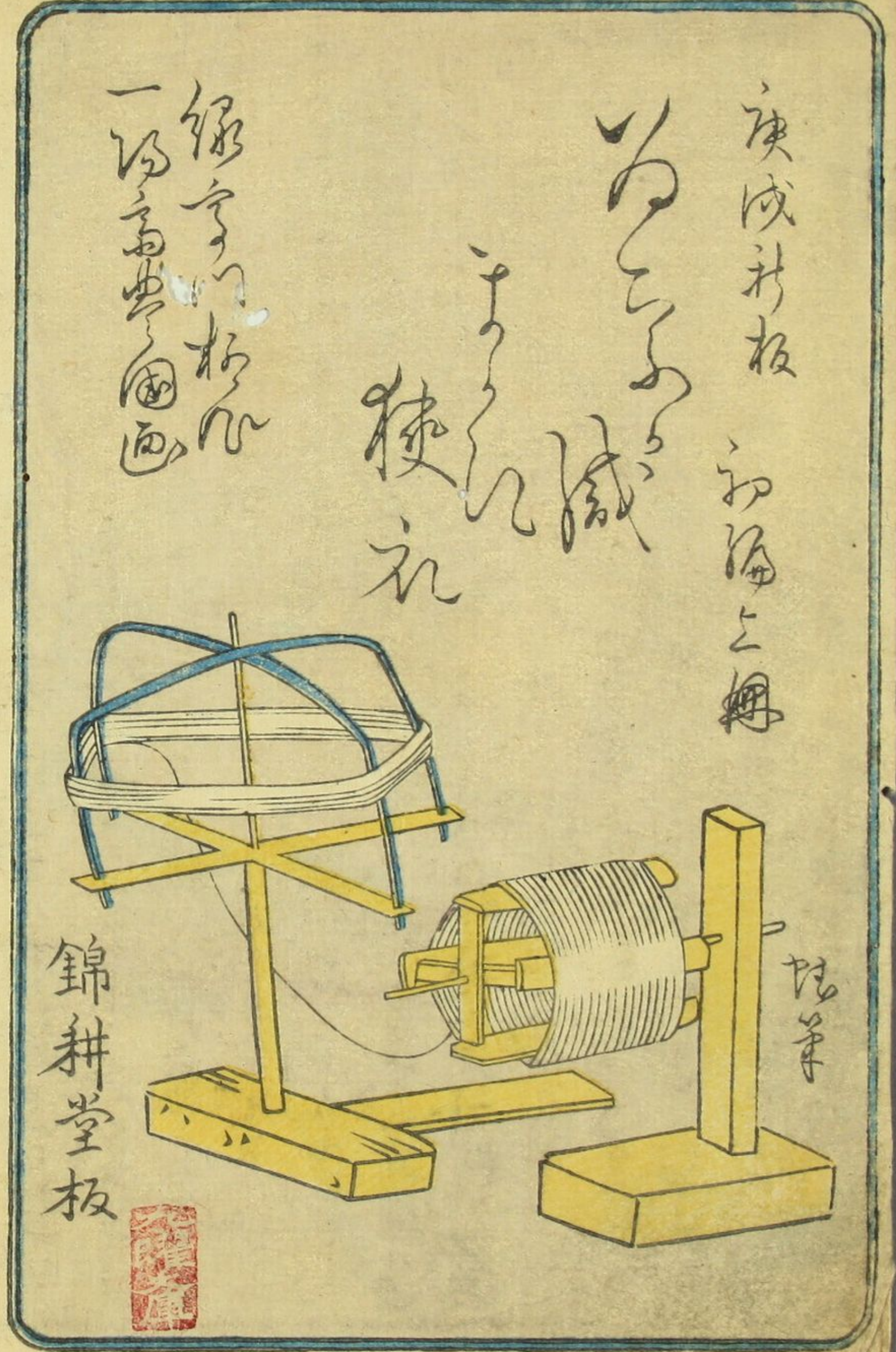
初編上

あま



ある田舎の娘あり幼より寺へて赤本あんと能讀て物書と
 も好まむ師の坊給これを登昇昔より女の筆意に名高の清少納言の枕
 草子此紫式部が源氏其子大貳三位の作一狭衣何れも雅人の忌受は
 物より女と産て物学せむ斯を有るものそとに彼娘是と聞そふく
 更中もあつて五母此亦あつて源氏の旗の白布織と上る我身も夫
 を見習はば狭衣なるもの作る難しとあると云顔あるてきけん師の坊
 りと可笑其方の利發る生ても鄙小育て風雅疎歌といふ田植金剛
 小唄ふと心得枕草子の春連と推一狭衣の田舎木綿と思ふひをるるねど
 風流虫同一名でも異物といふ一壁言ひあま衣控る嚴と縁にあまの羽衣
 源衣田其嶋杯の雨の衣あま衣王源氏と縁は延喜の著物より夫等の弁
 もあつて猥小口とさるるもの狭衣の草子の名実言ふ作り物あつて言われて
 娘の悔しく思ひ言出た一念力狭衣小似と書信とて観音廿廿祈誓言

狭衣の



錦耕堂板

紡車

狭衣新板 初編と母

あつて

よう

狭衣

縁衣の板
一編と母





田舎娘村の観音堂
 申すまふ杖衣の草子
 編る
 教あるを名紙
 さふかくとるる
 ねがはれくあふべ
 せまらるるや

をかけ御堂に籠りて筆をとり如意輪さまると小首を傾け然く見まど
 不文言廿五帖も延まゝ親で趣向の勸懲以何因縁方便機蹟ふ糸線
 織求ふあのが妙智力一切衆生の貝肩を願ひ先一帖の稿を脱ま
 嘉永三庚戌 孟陽發齋
 緑亭川柳記

い
の
年
来
の
い
は
れ
ま
さ
あ
は
れ
ま
さ
あ
は
れ
ま
さ
あ
は
れ
ま
さ

前將軍義詮公の
息女 万葉姫
源氏の
宮小比



満詮公の
嫡子 綾春
大將
狭衣
小比

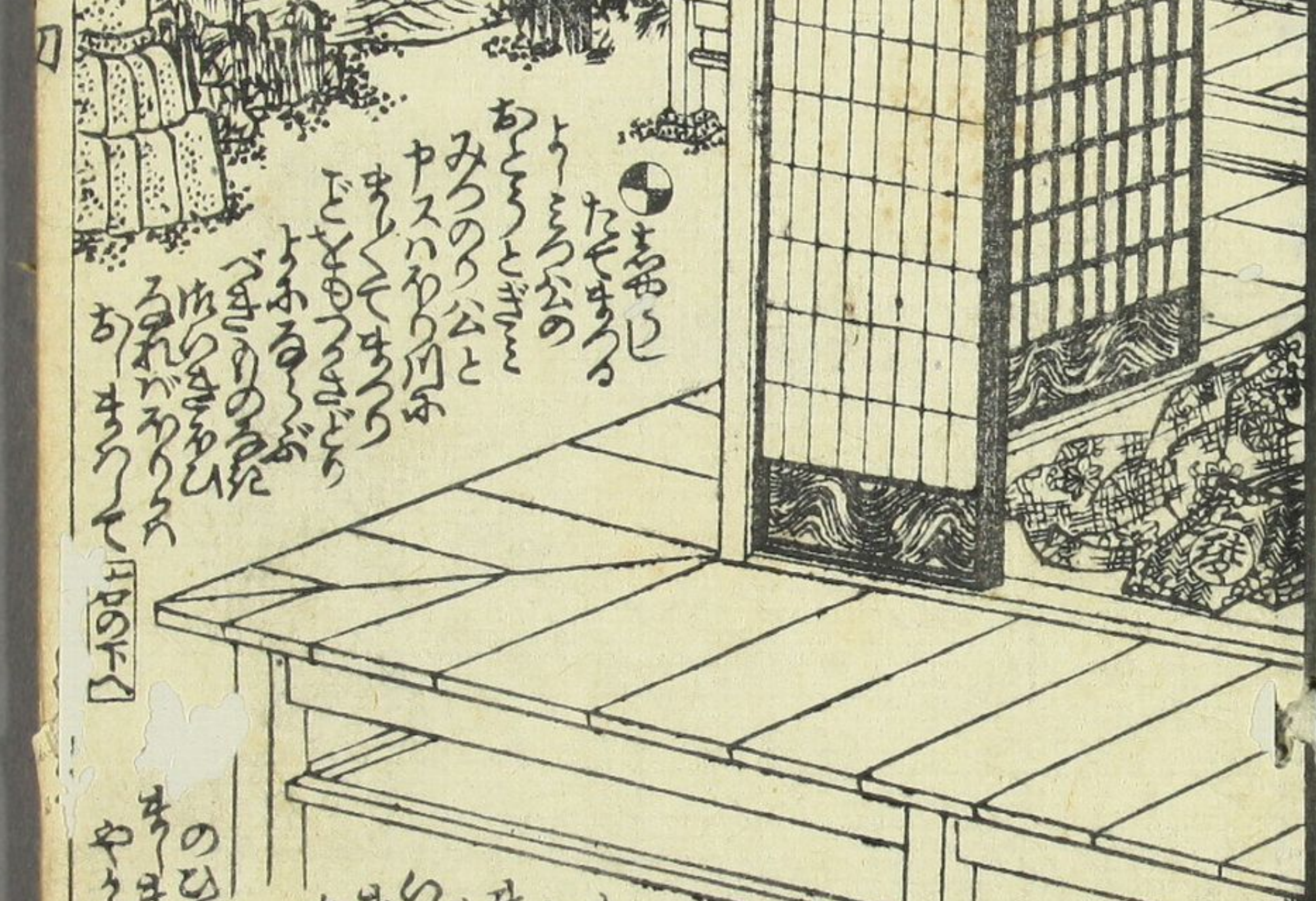


あつたまのそなた
わらわはさうりう
日久しゆくもまの
るさのころやふ
のあつたまのそ
あつたまのそなた
のころのあつたま
ひよさけてのま
わのころのあつた
かやりのあつた
ひめとまの
さうりうとあつた
うせのあつた
るひささのあつた
あつたまのそ
りとのあつた
まのあつた
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ



左の申かばちちやぶ
のうらぶらぶと
くれも目をあたいうま
たうらりけりそのあ
あやとよのあつた
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ

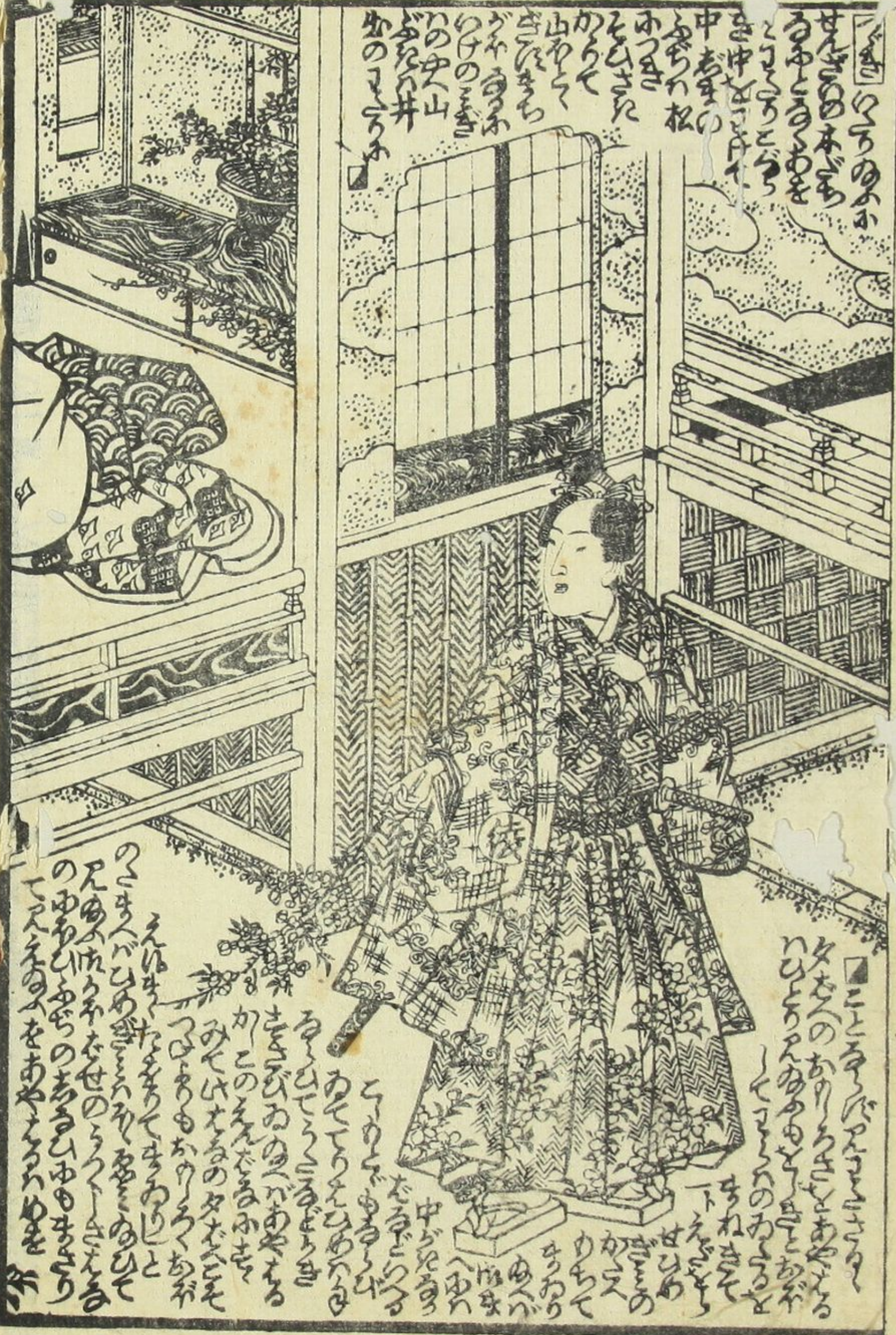
あつたまのそ
わらわはさうりう
日久しゆくもまの
るさのころやふ
のあつたまのそ
あつたまのそ
のころのあつたま
ひよさけてのま
わのころのあつた
かやりのあつた
ひめとまの
さうりうとあつた
うせのあつた
るひささのあつた
あつたまのそ
りとのあつた
まのあつた
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ



あつたまのそ
わらわはさうりう
日久しゆくもまの
るさのころやふ
のあつたまのそ
あつたまのそ
のころのあつたま
ひよさけてのま
わのころのあつた
かやりのあつた
ひめとまの
さうりうとあつた
うせのあつた
るひささのあつた
あつたまのそ
りとのあつた
まのあつた
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ
あつたまのそ



あはれけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも

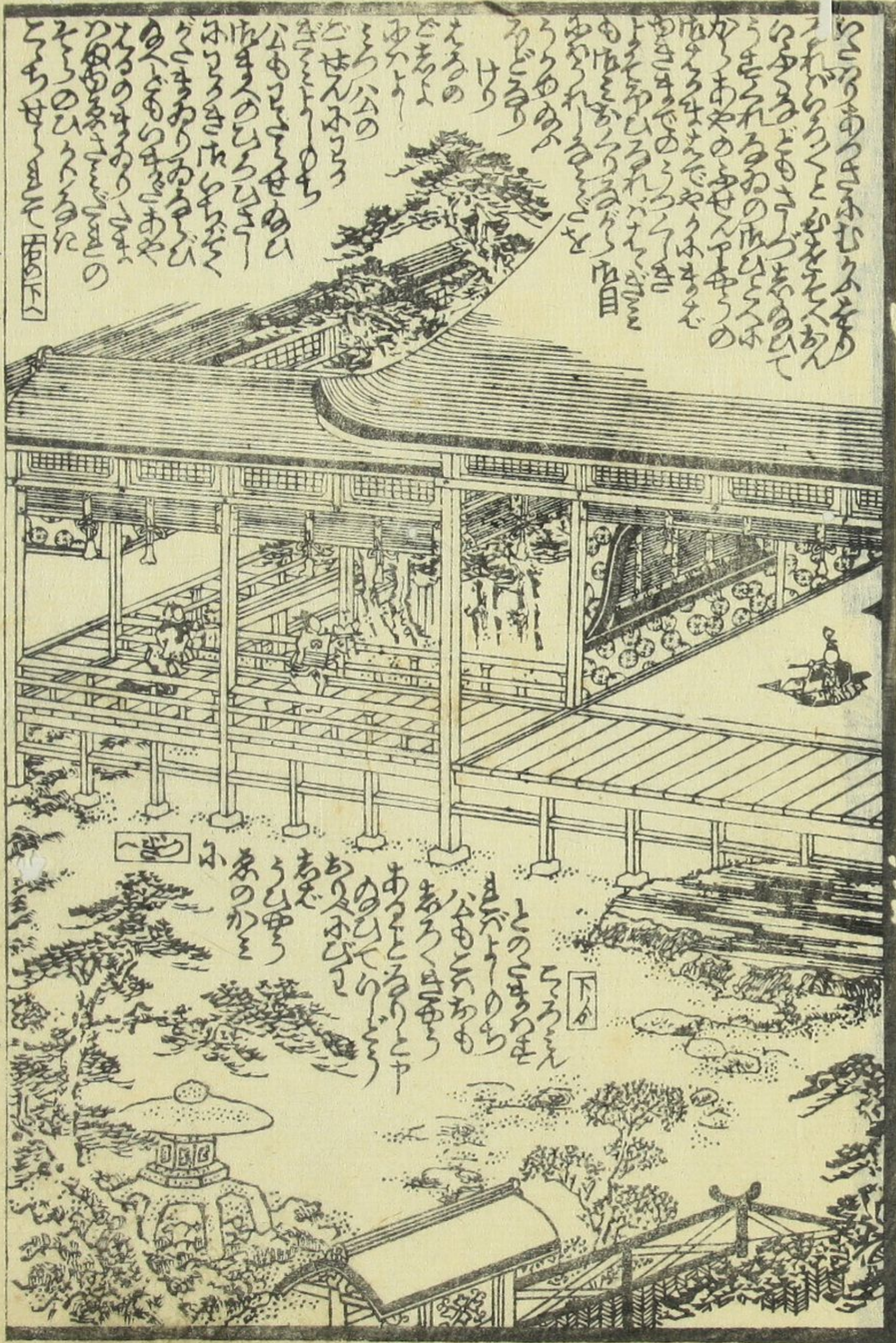


あはれけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも

あはれけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも
あらたけりけりこのよめも

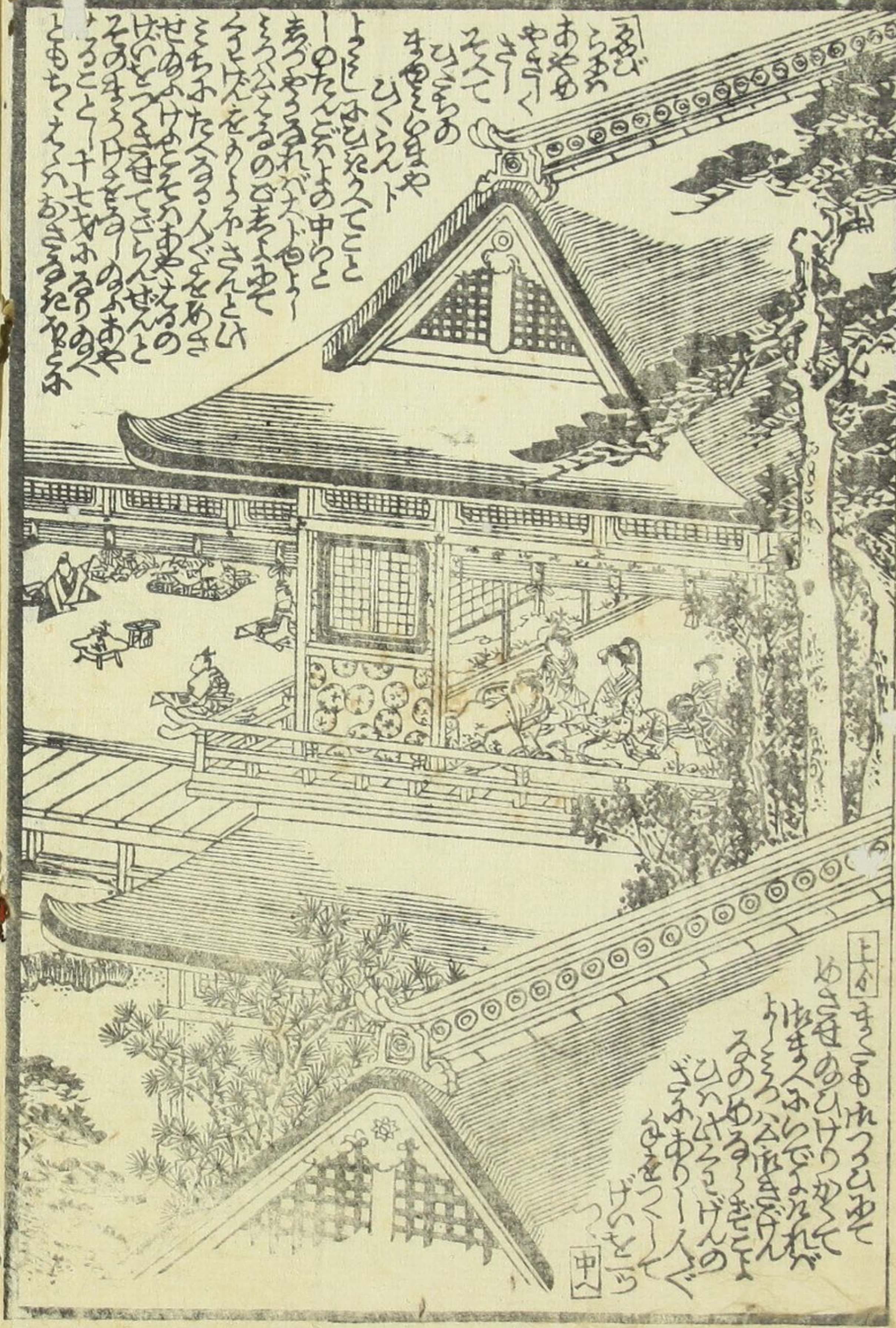
あはれけりこのよめも

あはれけりこのよめも



この庭の南へむくもその
 のれりやうくととをそく入
 ろゆるとのさしづるあひて
 うまされるあひひてあ
 かつあやのあやんやあうの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり

とこのまゝに
 まづよりのち
 にもあひま
 らうくとあ
 あつとあ
 のひてり
 ありあひま
 ういあ
 のか
 中
 下



この庭の南へむくもその
 のれりやうくととをそく入
 ろゆるとのさしづるあひて
 うまされるあひひてあ
 かつあやのあやんやあうの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり
 どのの
 けり

とこのまゝに
 まづよりのち
 にもあひま
 らうくとあ
 あつとあ
 のひてり
 ありあひま
 ういあ
 のか
 中
 下





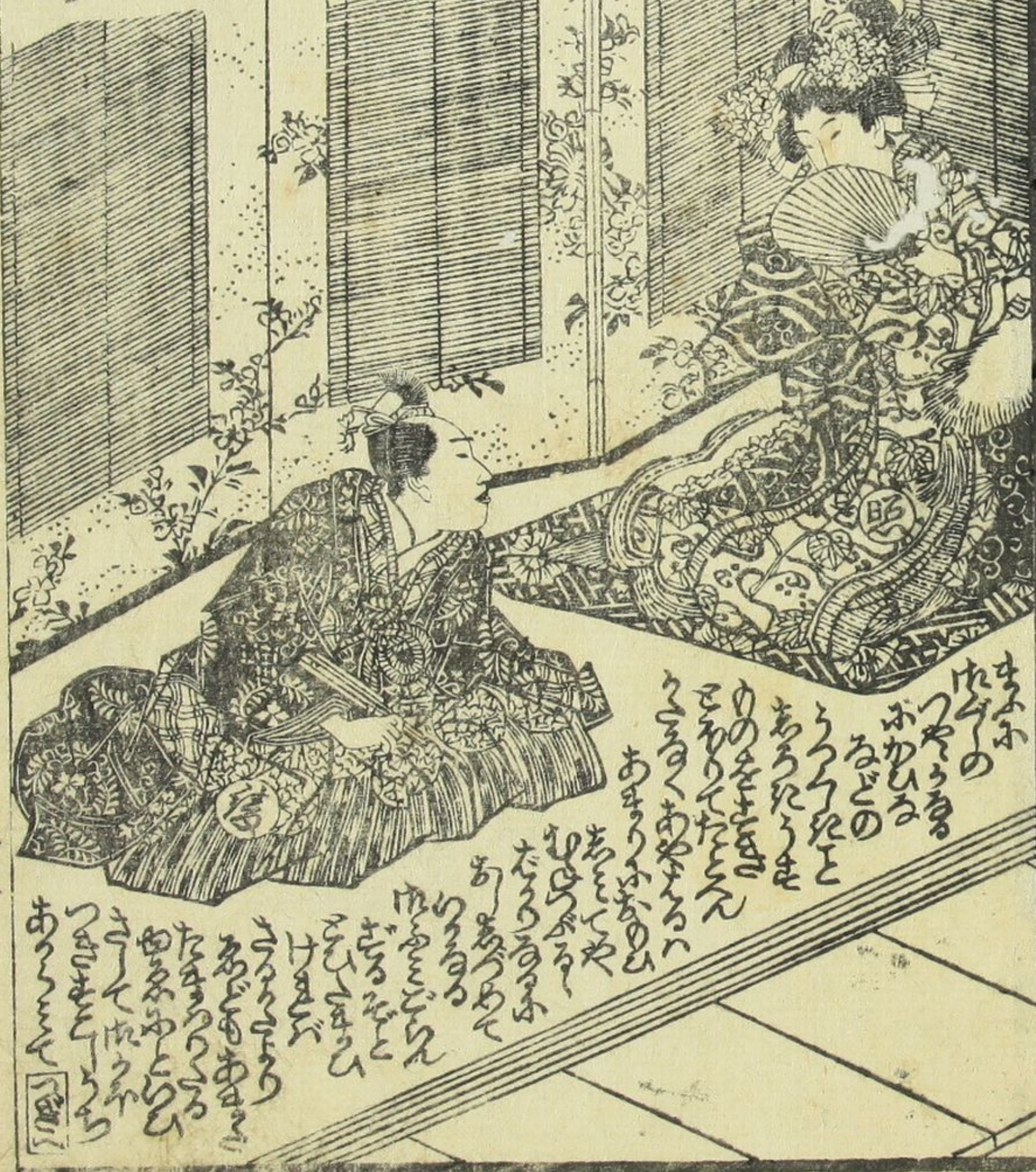
豊國
山
心
西

か
ら
り
さ
る

初編下



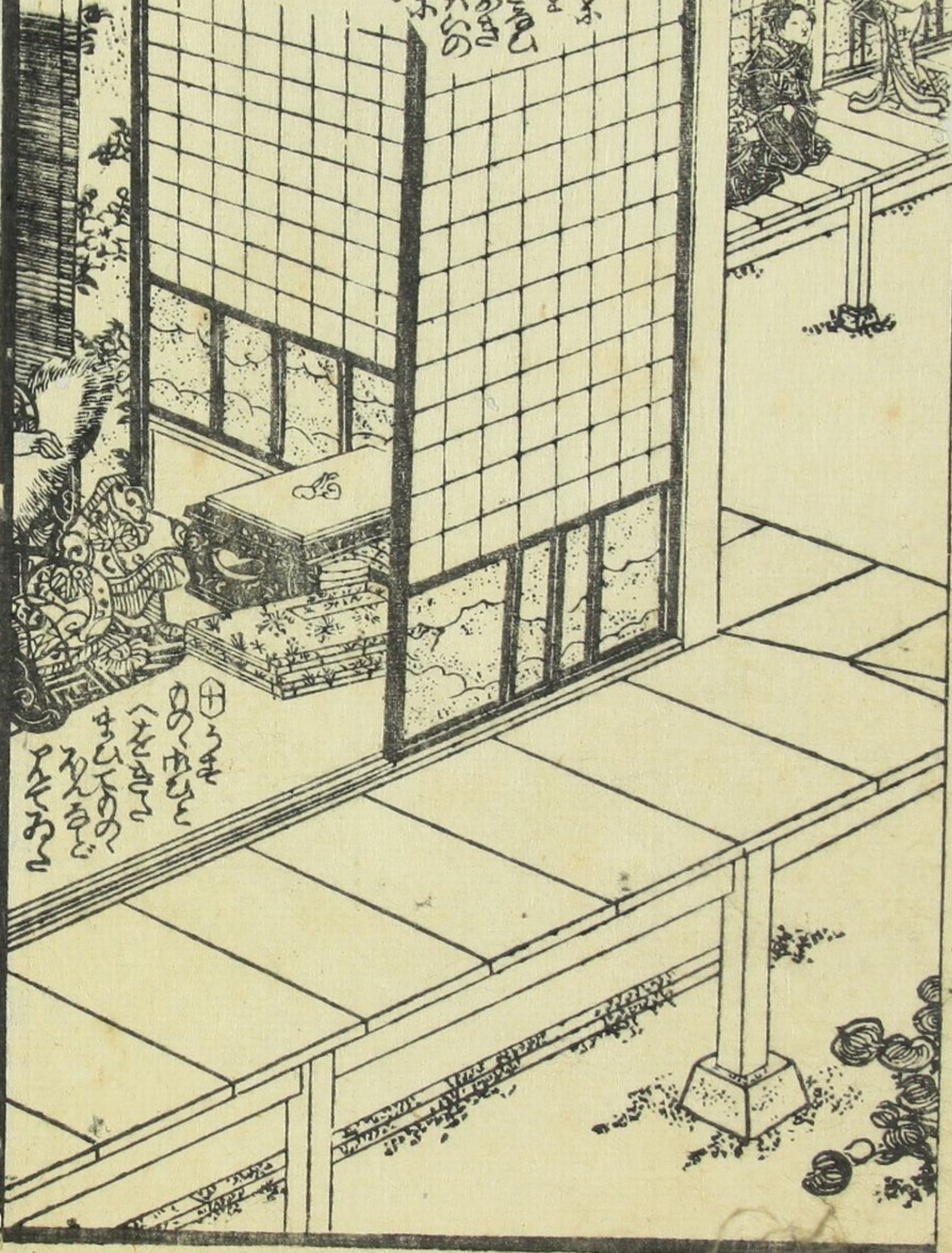
一歩も動かない
 静かに座を敷く
 花柄の障子を
 開け放つ
 春の風が吹く
 匂いも香る
 心も静まる
 此の世の中
 一期一會
 大切に
 生きて
 行きたい



静かなる
 春の朝
 花の匂い
 心に染み
 入る
 此の世
 一期一會
 大切に
 生きて
 行きたい

静かなる
 春の朝
 花の匂い
 心に染み
 入る

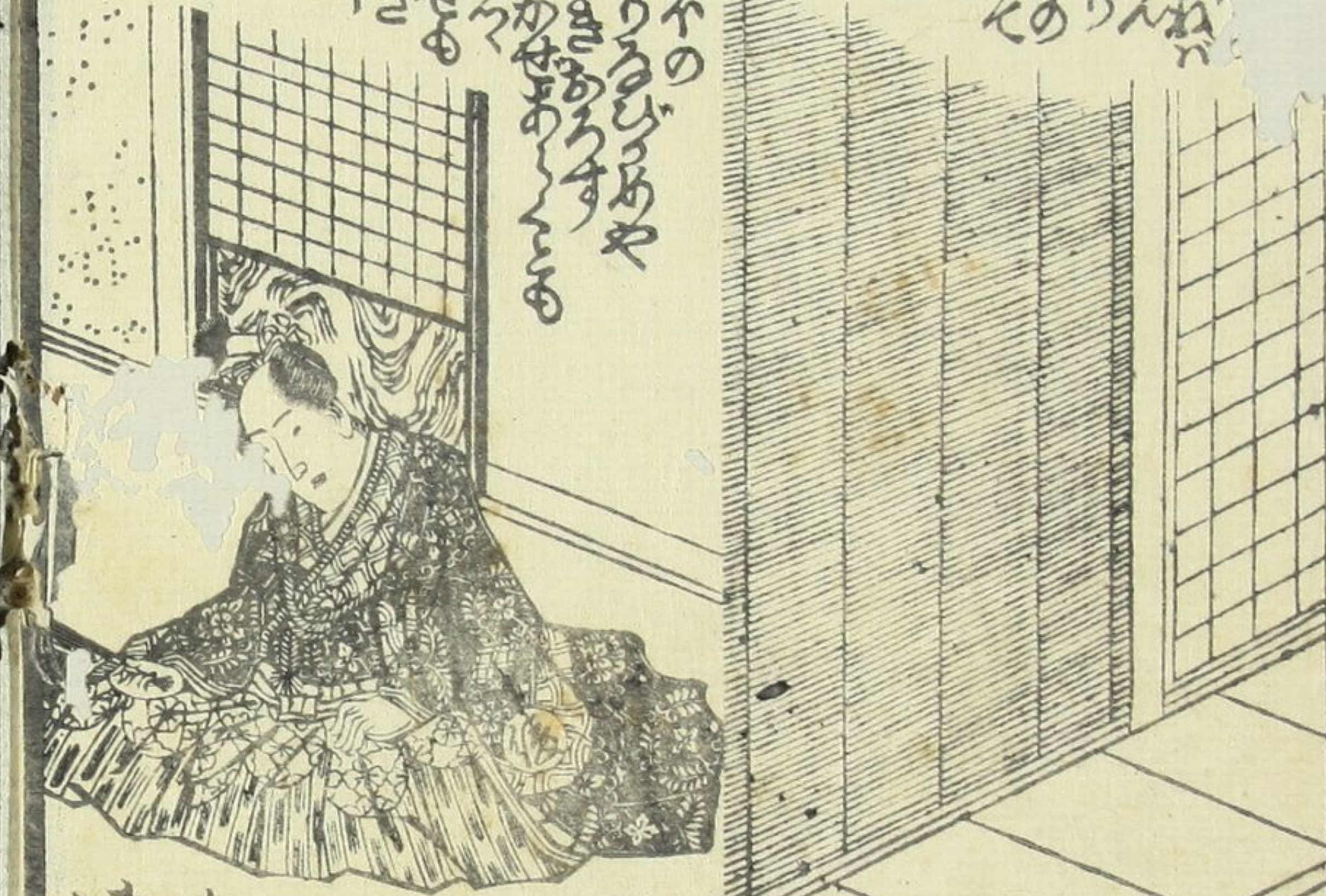
静かなる
 春の朝
 花の匂い
 心に染み
 入る



静かなる
 春の朝
 花の匂い
 心に染み
 入る

うらつねのこゝろを
あはれなきはあんな
いとせしけんをこり
ざりお二あひのめ
ことそのあはれと
るふかたかこ
らひいさまを
あはれなき
あはれなき
あはれなき

あはれなきの
けがりのひつあや
うらつねのこゝろを
あはれなき



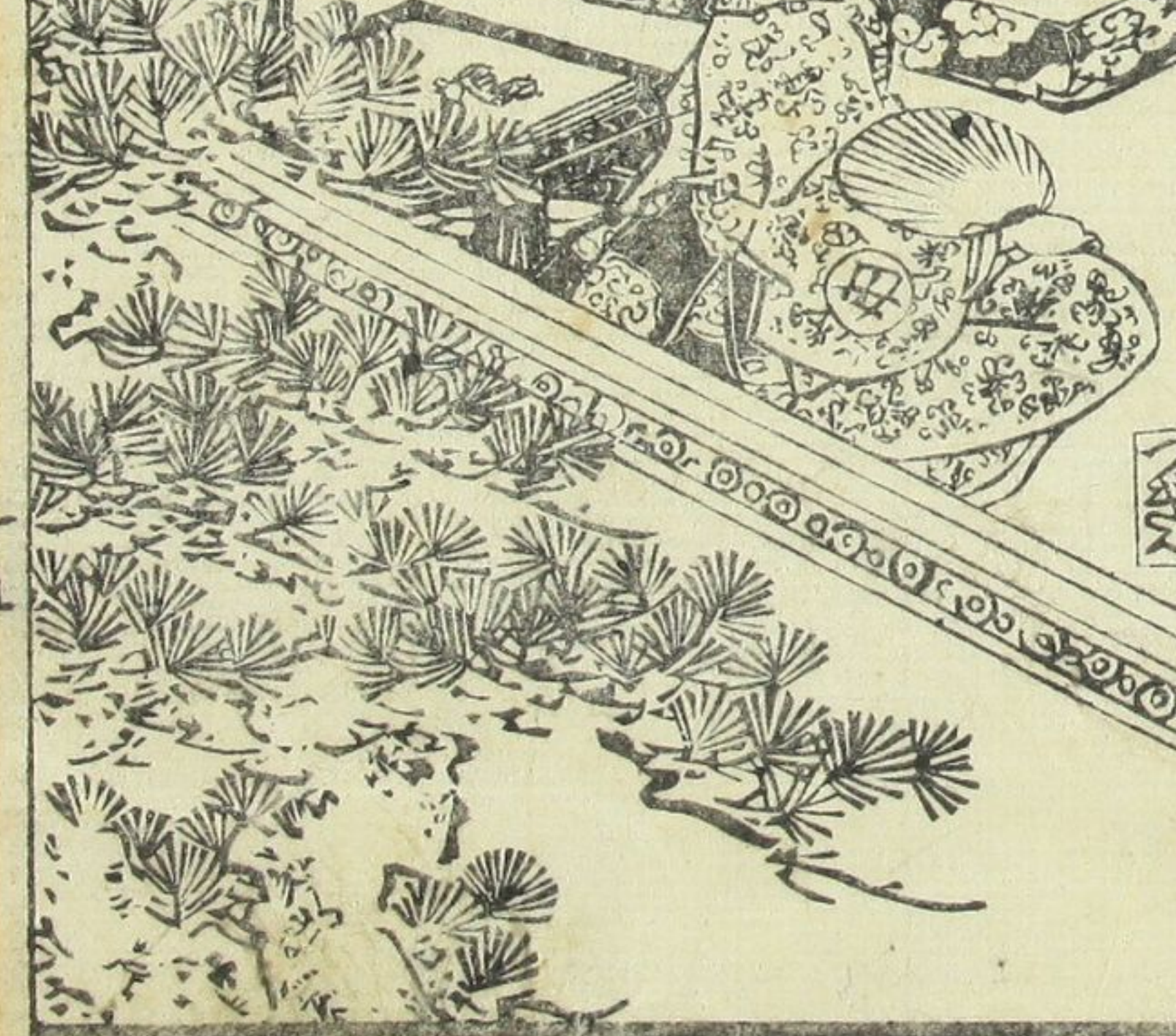
かゝる
うらつね
あはれなき
あはれなき
あはれなき
あはれなき

あひのこゝろを
あはれなきはあんな
いとせしけんをこり
ざりお二あひのめ
ことそのあはれと
るふかたかこ
らひいさまを
あはれなき
あはれなき
あはれなき

あはれなき
あはれなき



あはれなきの
あはれなきの
あはれなきの
あはれなきの
あはれなきの
あはれなきの



川柳作豊國画



はるけきものちあはれなるの
小あはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの
おもひあはれものちあはれなるの

川柳作豊國画
めいめい
川柳作豊國画
めいめい

江戸鹿子紫草紙

初編 文亭梅彦作
出版 一陽齋豊國画

坂東太郎後世譚

初編 楽亭西馬作
六編 玉蘭斎貞秀画

岸柳四魔物語

初編 楽亭西馬作
二編 一雄斎國輝画

昔語太琴の礎

全冊 長嶋一魁車作
錦朝楼芳虎画

つゞく艸玉の盃

初編 山東庵京山作
四編 一勇齋國芳画

新編柳樽

三十編 追々集

書物錦繪見

馬喰町二丁目
山口屋藤兵衛板

